医療法人社団 中川会 広報誌

あさがお通信

グリーン三条
キャラクター
みつばちゃん

14号
令和元年12月1日発行

特集1
施設長挨拶 ～介護医療院グリーン三条 開設～ …… 1
事務長挨拶 ～呉一番の介護医療院を目指して～ …… 2
看護師長挨拶 ～快適な生活の場を～ …… 2
技術科長挨拶 ～変わること、変わらないこと～ …… 2
介護医療院開設に際し、リニューアルをおこないました …… 3
こんにちは！グリーン三条介護支援相談室です …… 3
特集2 呉中通病院　訪問リハビリテーションを開始しました …… 4
地域連携室だより …… 4
居宅介護支援事業所開設８ヶ月を振り返って …… 5
呉中通病院　電子カルテ導入について …… 5
いきいき百歳体操 in 天応仮設住宅 …… 6

中川会 理念 医療法人社団 中川会は医療と福祉を通じて職員全員で呉地域で一番の施設を目指します。
http://nakagawakai.jp/

特集1 施設長挨拶 ～介護医療院 グリーン三条 開設～

グリーン三条　施設長
久保　雄治

医療法人社団中川会は、「医療の必要な要介護者の長期療養・生活施設」として、令和元年10月1日に「介護医療院グリーン三条」を開設いたしました。

呉地域で、今後増加が見込まれる慢性期の医療・介護のニーズを併せ持つ高齢者に対応するためには、医療処置、医学的管理等が必要なために、自宅や特別養護老人ホーム等での生活が困難な高齢者にも対応できる施設が必要であると考えます。地域包括ケアシステムのなかで当法人の役割、当法人ができることはと考えたとき、行きついた先が介護医療院の開設でした。

広島県内でも数少ない、呉市内では初めての介護医療院の開設ということもあり、手探り状態からの準備スタートでしたが、皆様のおかげで開設を迎えることができましたことを感謝申し上げます。

介護医療院 グリーン三条では、「日常的な医学的管理」や「ターミナルケア（看取り）」等の機能と、「生活施設」としての機能とを兼ね備えた施設として運営を行います。

利用者の生活様式に配慮し、長期に療養生活を送るのにふさわしい、プライバシーの尊重や家族・地域住民との交流が可能となる環境を整備しており、経管栄養や喀痰吸引等を中心とした日常的・継続的な医学的管理ならびに、ターミナルケア（看取り）を実施する体制も備えております。個人の意思を尊重しながら尊厳ある人生を全うできるように、「治すだけの医療」ではなく「生活を支える医療・介護」を提供していきます。

「介護医療院 グリーン三条」は要介護高齢者の方々の生活を、医療と介護で支える施設として、地域に貢献できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

事務長挨拶　～呉一番の介護医療院を目指して～

事務長
駄賀　健治

当法人では、一昨年度から『グリーン三条あり方検討会』を開催し、呉地域での当施設の役割を検討してきました。

高齢化がさらに進み、慢性期医療の対象者、重度化した要介護者が増加していく呉地域のなかで、我々が検討してきたのは介護老人保健施設から介護医療院への転換でした。

方向性が決まったのが昨年の末、その後、法人内でプロジェクトチームを結成し、事務手続き、運営方法の見直し、設備の見直し等、毎月、毎週と協議を重ねて開設までたどり着くことができました。

施設の改修工事等にあたっては、利用者さまの方々にもいろいろとご迷惑をおかけしました。また、施設変更に伴う、契約等の事務手続き、ご家族の方々のご協力に感謝申し上げます。

皆様のおかげで、呉地域で「一番に」介護医療院になることができました。今後は呉地域で「一番の」介護医療院となれるよう職員一同努めてまいります。

引き続きご指導ご協力の程、よろしくお願いいたします。

看護師長挨拶　～快適な生活の場を～

看護師長
神垣　有紀

老人保健施設から介護医療院となった当施設は、元病院であったこともあり、中央配管の吸引設備があるなどハード面で恵まれている一方、職員にとっては、グリーン三条は治療や処置といった医療サービスを中心とした施設であるといったイメージが強く残っておりました。転換にあたっては、私たち職員もそういった意識を変えていく必要があると考え取り組んできました。

介護医療院は利用者さまの住まいと生活を介護と医療で支えていく、本人の生活を主体としたサービスを提供する場です。医療依存度が高く、要介護度も高い、いわゆる「寝たきり」の利用者さまが多い介護医療院ですが、どのような状況にある利用者さまに対しても、その人らしい生活を送っていただけるよう多職種協働により、その方の状態に応じた尊厳のある生活を支援していきたいと思います。人生の最後におけるケアとしての「看取りケア、ターミナルケア」も介護医療院として取り組むべき課題です。介護医療院が利用者さまにとって快適な「生活の場」となっていただけるようスタッフ一同頑張ります。

技術科長挨拶　～変わること、変わらないこと～

技術科長
川本　剛

令和元年 10 月1日、介護老人保健施設グリーン三条は、「介護医療院 グリーン三条」として生まれ変わりました。

介護医療院は、昨年 4 月に新たな介護保険施設として創設されたため、まだ聞き慣れませんがこれから少しずつ耳になじんでいくものと思っています。

介護医療院に移行して「変わること」、「変わらないこと」があります。変わることは、これまで以上に充実した看取りや終末ケアを提供することです。変わらないことは、これからも真心のこもったサービスを提供し続けていくことだと考えています。

技術科は、リハビリ、栄養、薬剤の 3 部門から構成されています。私たち技術科スタッフは、それぞれの専門性を活かし利用者さまが、より良い日常生活が送ることが出来る土台作りを支援してまいります。スタッフ一同、笑顔あふれる施設を目指し頑張ってまいりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

介護医療院開設に際し、リニューアルをおこないました

建物設備の大きな変更点として、療養室各部屋に間仕切りパテーションを設置しました。介護医療院は、長期療養生活を前提とした施設のため、入所者さまのプライバシー空間に配慮した療養室とする必要があります。

これまではカーテンのみで仕切られていたベッドサイドに、パテーションを設置することにより、利用者さまのプライバシーを、より確保することが可能となりました。

設計の段階でメーカーの方々と協議をした際、パテーションの大きさ、形状、窓枠の大きさ等々、各所の選定に大変苦労しました。大きなものを設置すればプライバシーの確保はより保てるものの、大きいゆえ圧迫感もあり、日の光も遮ぎり、うす暗くなってしまいます。試作品も見て検討した結果、大きさは最低限度に抑え、温かみのある家具調の開閉式パテーションを設置することができました。普段は開けておけば、これまでどおりの空間が利用でき、利用者さまにも職員にも好評です。

業務上の設備としてはタブレットによるケアサービスの入力システムを導入しました。看護・介護の記録について、これまではスタッフが全て手書きで記録を行っておりましたが、日常記録業務のほとんどがタブレット (ipad) による入力が可能となりました。記録業務に係る時間が削減でき、利用者さまと接することの出来る時間が増えるとともに、情報共有のスピードも格段に向上することができました。まだまだ運用について試行錯誤の段階ではありますが、いずれはペーパーレス化を目指して取り組んでおります。

その他にも、寝台式の特殊浴槽も新調しました。全療養室、食堂、廊下の壁紙も真っ白なものに張り替えました。

綺麗にリニューアルされた施設で、我々職員一同も気持ち新たに、介護医療院の利用者さまを 10 月からお迎えしております。

事務長　駄賀　健治

こんにちは!グリーン三条介護支援相談室です

私たちの役割は、まず、入所の相談に来られた方に対して、介護医療院グリーン三条がどのような施設であるか、入所後はどのように生活をしていただけるかを、しっかりとご理解いただくことです。

そして入所後も、ご家族、スタッフとの連携をとりながら入所者さまが安心して生活していただけるよう支援を継続していきます。

今後は、施設が介護医療院となり、長期療養の入所者さまが多くなるため、地域活動への参加、ボランティア活動の受け入れ、レクリエーション活動の充実等、入所者さまがメリハリのある生活を送っていただけるような取り組みも必要と考えます。

利用者さま、ご家族、スタッフのみなさんとは、入所生活に関することだけでなく、ときには旦那の愚痴、子どものこと、趣味の話など、些細な話でいつも盛り上がっています。いつでも誰でも気軽に立ち寄れ、そして頼りになる、そんな介護支援相談室を目指しています。どうぞよろしくお願いいたします。

グリーン三条　相談員
馬越　律子

特集2

呉中通病院
訪問リハビリテーションを開始しました

呉中通病院　副院長
中川　豪

私たち呉中通病院では開院時より脳神経外科・脳神経内科・整形外科における疾患を中心に「回復期」を重視した医療を行ってまいりました。

リハビリテーションを要する疾患・外傷に遭い、一時「生活」から引き離された患者さまを無事「生活」に送り届けることをミッション（使命）として、これまでもリハビリテーションの質・量ともに充実させてきました。

その中で課題として浮かび上がったのが、当院から「生活」へ送り届けた退院患者さまが、家から出られない状況で徐々に退院時に獲得していた機能を喪失される現状でした。

これを打破するため、この度当院より訪問リハビリテーションを始めることとなりました。

住み慣れた自宅で、自立度の獲得・自立度の喪失予防・介護の重度化予防を行うことにより、「疾患・外傷を診る医療」と「生活に寄り添う医療」の両輪そろった安心して住める呉地域を構築していきたい。

この思いをスタッフ全員で共有し、呉地域に貢献してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

呉中通病院 訪問リハビリテーション
運営責任者　**沖本敦志**（理学療法士）

呉中通病院では８月１日から訪問リハビリテーションを開始いたしました。

ご自宅で生活する中で、徐々に力が弱くなった、ベッドから起きられない、よくむせるようになったなど、加齢や病気が原因で生活が徐々に制限されてくることがあります。そのような場合に、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士といった専門職が、ご自宅に伺ってリハビリテーションを行います。ご自宅内や周辺での移動・歩行訓練、料理や掃除・洗濯等の家事の訓練、飲み込みを改善して誤嚥を防ぐ嚥下訓練など、他にも様々なリハビリテーションを、利用者さま一人ひとりの状態やご希望に合わせて実施します。

12 月から作業療法士と言語聴覚士が新たにサポートに加わり、今まで以上に皆様の望みや思いに寄り添うことで、ご自宅での快適な生活を実現できるよう尽力して参ります。

地域連携室だより

呉中通病院
地域連携室主任
小野　由美

様々な病院、医療福祉機関、介護サービス事業所の皆様に支えられながら令和元年という年を有意義に過ごさせていただきました。地域連携室での約 10 ヶ月間、私にとっては新しい出会いや経験の連続でエキサイティングな毎日でした。それはまた今の医療が抱えている難しさを現実に見る場でもあったと思います。国の打ち出している「地域包括ケアシステム」の必要性を感じながら難しさもひしひしと身にしみています。地域連携室の役割は今よりもっと微に入り細にわたる必要があると感じています。今後ともスタッフ一同病院内外の連携をパワーアップして患者さま、家族の方のお力になれるよう努力を惜しまず頑張ります。ご指導よろしくお願いいたします。

呉中通病院
地域連携室
社会福祉士
大上　哲治

10 月１日に入社し、地域連携室に配属となりました大上　哲治（おおうえてつじ）です。

これまでは、社会福祉法人に勤務し、特別養護老人ホームの生活相談員、デイサービスセンターの相談員等の業務に携わっておりましたが、この度ご縁があり、呉中通病院で働くこととなりました。

現在、勤務して ３ヶ月経ちましたが、病院勤務は初めてのため、分からないことばかりで、諸先輩皆さまに大変ご迷惑をおかけしている状況です。

１日も早く仕事に慣れ、呉中通病院が地域包括ケアシステムの一翼を担うため妥協せず責任感を持って取り組む所存です。何とぞご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

居宅介護支援事業所開設８ヶ月を振り返って

中川会居宅介護支援事業所
所長　中川　学

中川会居宅介護支援事業所は、今年の４月に開設し、あっという間に８ヶ月になりました。
お陰様で少しずつではありますが、利用者数及び相談件数も増えてきております。
今回は、自己紹介も兼ねて、以前勤務していた北海道で学んだことを、少し書かせて頂きたく思います。
私は、呉市出身で、福祉業界で約 30 年仕事をしており、その間で北海道には約８年間おりました。
４年間学校に行き、その後何か北海道の為に貢献できないかを常に考えていました。
介護保険制度が開始された前年の 1999 年、北海道でケアマネジャーをする事にしました。
私は、事業所近隣と事業所から約 30㎞の所に位置する村（東京 23 区とほぼ同じ大きさで当時人口約 1,100 人 65 歳以上高齢者約１／3）を担当していました。道路付近には、「鹿横断注意」「熊出没注意」の看板があり、冬の峠越えではエゾシカの群れに遭遇して、衝突しそうになった事もありました。道端に水芭蕉が咲き、心が癒される景色が多くありました。
ただ、その頃は訪問介護しかサービスがなく、村として他の市町村のサービスを利用する事を方針として考えていました。
地域にサービスもあまりなく、医療機関は週に2日診療を行う診療所1つ、市街地以外では隣の家まで最低 100 mは離れており、ケアプランを作成するにも困難が多くありました。
ある利用者（84 歳女性）は優しい目で微笑みながら「息子に迷惑を掛けたくないからここに住んでいるのではない。自分の生きてきた証がこの村にあるから、ここで住み続けたい。生まれ育ったこの村で最期まで生活したい」と言われました。その当時の私は、人生駆け出しの 30 歳前半で頭では分かったつもりでした。今、歳を重ねて改めてこの言葉の重さを実感しながら、しみじみと噛みしめております。
「高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。」と厚生労働省は謳っています。利用者の自分らしい人生を理解するには、先ず利用者の生きてきた歴史を理解して「証」を大切にし、サポートすることが利用者の尊厳を守ることだと思い日々の仕事を行っております。
今後も地域の皆さまのサポートを頂けるようよろしくお願い致します。

呉中通病院
電子カルテ導入について

医療情報管理課
松村　洋平

この度、令和元年８月１日にオーダリングシステムの老朽化に伴い、電子カルテを含む医療情報システム（HIS）の新規導入及び更新を行いました。
システムの入替について、約１年半前から検討を重ねてまいりました。紙カルテの慣れやコストの面を含め、当初オーダリングシステムの状態で更新したいという意見も多くありました。しかし、今後のデータの利活用も考慮し、電子カルテ化を決定いたしました。
情報の確認方法の多くが紙媒体から画面に変更になりました。そして、過去のオーダーデータなど移行情報の確認作業も必要になり、電子カルテ化のみではなく、他社のシステムへ変わることの大変さを実感しながら導入作業を進めて参りました。現場では、運用フローの変更が必須となり、混乱が生じましたが、幅広く見直しができた点はよかったと感じております。
現在も運用しながら課題を一つずつ解決していく状況ですが、医療の質向上の一つのツールとして電子カルテの活用を行って参ります。今後とも、よろしくお願い致します。

いきいき百歳体操 in 天応仮設住宅

昨年 10 月から当院は、地域包括ケアシステムの中で位置づけられている広島県地域リハビリテーションサポートセンターに指定されました。その役割の一つとして、介護予防事業があり、住民通いの場における百歳体操と地域ケア会議等があります。

リハビリ部から理学療法士2名と作業療法士１名が活動しています。

７月 25 日呉市天応仮設住宅にて、私たちはいきいき百歳体操を指導するにあたり、転倒リスクに十分気を付け身体評価を行いました。

メインの体操は、重りを使用した 30 分程度の運動で DVD を観ながら行います。重りの重さは調節可能で、ご自身の体力に合わせて行えます。リズムはゆっくりかつ 30 分程度の運動で無酸素と有酸素運動を取り入れた効率のいい筋力運動と言えます。

「これなら続けられそう」、「頑張ってみます」といった声が聞けました。

３か月後に、再び訪問させていただき、身体評価と体操指導をさせていただく予定です。今回の身体評価と比べて、筋力やバランス能力、体力が向上し、住民の皆様が元気に生活や趣味を楽しめるようにサポートしていきたいです。

呉中通病院　理学療法士　吉金　悠人

編集後記

・身近な人で誕生日を知っている人は何人いますか？
・この一年で何人の誕生日を祝ってあげましたか？
・あなたは誰に誕生日を祝ってほしいですか？

中川会は年次有給休暇5日取得が義務化された事に伴い、「バースデイ休暇」を含む計画的付与制度を導入しました。有給休暇取得率は個人差が大きく、特別な日である誕生日を計画有給休暇とする事で、取得率の向上をめざしています。

誕生日は、「この世に生まれた大切な日」「家族に感謝する日」「親に感謝する日」「歳を取ったことを実感する日」「自分の成長を確認する日」「自分を見つめる日」など、年齢とともに変化するもの、そうでないもの、色々な意味があると思います。今年の誕生日に皆さまは何を思われたのでしょうか？

中川会は来年9月で50歳、医療法人として創立50周年を迎えることとなります。また、呉市宮原に診療所を開業して70年となる節目の年となります。今日までやって来られたのもひとえに地域の皆さま方のお力添えのおかげと深謝いたします。

これからも、中川会は地域の医療・介護・福祉サービスとの連携の一層の強化を図り、信頼され質の高いサービスをめざします。ご指導･ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。　（森光）

医療法人社団 中川会 **呉中通病院**
●訪問リハビリテーション
〒737-0046　呉市中通１丁目３番８号〔JR呉駅より徒歩5分〕
TEL(0823)22-2510　FAX(0823)22-2514

介護医療院 **グリーン三条**
〒737-0821　呉市三条１丁目３番14号〔JR呉駅より徒歩7分〕
TEL(0823)23-0303　FAX(0823)23-0642

中川会居宅介護支援事業所
〒737-0046　呉市中通１丁目３番８号
TEL(0823)69-4441　FAX(0823)69-1160

2019.12.1000